

**製品名: GRF-1 (リン酸化 Tyr1105) ウサギポリクローナル抗体**

**カタログ番号: APRab04746**

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	160kDa

## 抗原情報

遺伝子名	ARHGAP35
別名	ARHGAP35; GRF1; GRLF1; KIAA1722; Rho GTPase-activating protein 35; Glucocorticoid receptor DNA-binding factor 1; Glucocorticoid receptor repression factor 1; GRF-1; Rho GAP p190A; p190-A
遺伝子 ID	2909.0
SwissProt ID	Q9NRY4
免疫原	抗血清は、ヒト GRF-1 の Tyr1105 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1071-1120

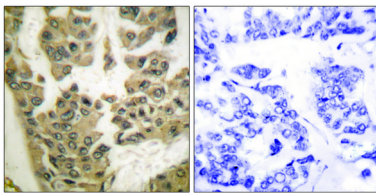
## 背景

ヒトグルココルチコイド受容体 DNA 結合因子は、グルココルチコイド受容体遺伝子 (hGR 遺伝子) のプロモーター領域に結合し、グルココルチコイド受容体の転写を抑制する。cDNA 配列から推定されたアミノ酸配列には、ジンクフィンガーに特徴的な 3つの配列モチーフと、ロイシンの代わりに 1つのシステインが結合したロイシンジッパーを示唆する 1つのモチーフが存在する。GRLF1 は、野生型 hGR 遺伝子の発現の相対的ダウンレギュレーションを促進する。生化学的解析から、GRLF1 との相互作用は配列特異的であり、GRLF1 の転写効率は特定の配列モチーフとの相互作用を介して制御されることが示唆されている。発現レベルはグルココルチコイドによって制御される。[RefSeq 提供、2008 年 7月],機能: シス作用性調節配列 5'-GAGAAAAGAACTGGAGAACTC-3'に結合し、グルココルチコイド受容体の転写を抑制する。網膜の発達および変性の調節に関与する可能性がある。p21-ras からのシグナルを核へ伝達し、ras GTPase 活性化タンパク質 (GAP) を介して作用する可能性がある。腫瘍抑制因子としても作用する可能性がある。PTM: DNA 損傷時にリン酸化される (おそらく ATM または ATR による)。PTM: チロシンリン酸化される。類似性: 1つの Rho-GAP ドメインを含む。類似性: 4つの FF ドメインを含む。サブユニット: p120GAP と相互作用する。

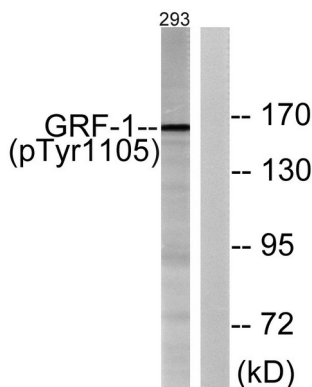
## 研究分野

接着斑、白血球の内皮透過移動、アクチンと細胞骨格の調節、

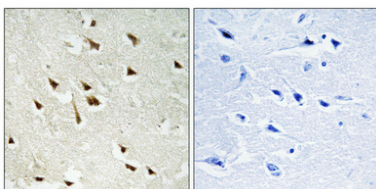
## 画像データ



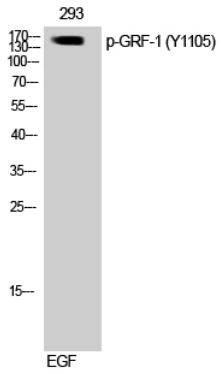
GRF-1 (リン酸化 Tyr1105) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



GRF-1 (リン酸化 Tyr1105) 抗体を用いた、EGF 200 ng/ml 30分処理した 293 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 に希釈し (4°Cで一晩)、抗原賦活化には高温高圧トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。



リン酸化 GRF-1 (Y1105) ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット  
解析